

3年連続準優勝

室蘭・海星学院女子

全道高校新人バスケット大会



全道新人大会で3年連続準優勝した海星学院女子メンバー

2月12、14日に旭川市で開催された、第27回北海道高校新人バスケットボール大会(室蘭・海星学院(中島洋介監督)の女子が3年連続の準優勝となった。初優勝は逃したが、けが人が続出するアクシデントの中、チーム一丸で戦い抜いた。女子は32チームが出場。海星学院は、センターで、国体選手(長岡侑里(2年)をはじめ、ガードの延足紗奈(同)、フォワードの土谷きらり(同)が中心。昨年とほぼ同メンバーで経験ある選手がそろった。

初戦の苦南戦は、長岡が相手選手の手を顔面に受けけがをするも86-49で圧勝。2回戦の札幌創成戦は、延足が前十字靭帯を断裂する大けがで戦線離脱。チームも劣勢となったが、終盤で逆転しワンポイント差の68-66で勝利した。

3回戦からは、延足の代わりにガードに入った遠藤礼菜(2年)がゲームを組む。初戦の苦南戦は、長岡が相手選手の手を顔面に受けけがをするも86-49で圧勝。2回戦の札幌創成戦は、延足が前十字靭帯を断裂する大けがで戦線離脱。チームも劣勢となったが、終盤で逆転しワンポイント差の68-66で勝利した。3回戦からは、延足の代わりにガードに入った遠藤礼菜(2年)がゲームを組む。初戦の苦南戦は、長岡が相手選手の手を顔面に受けけがをするも86-49で圧勝。2回戦の札幌創成戦は、延足が前十字靭帯を断裂する大けがで戦線離脱。チームも劣勢となったが、終盤で逆転しワンポイント差の68-66で勝利した。

けが人が相次ぐ中 チーム一丸の戦い

「ガードがいなくなり、決勝は競うことができなかった」(中島監督)。それでも、けが人が多く苦しい大会の中、準優勝。インターハイ全道予選の支部としてシールド権を得た。中島監督は「今のチームは例年になくメンバーションが高い。全国でも通用する長岡を中心に総合力を上げていきたい」と夏を展望する。

中、今大会1試合平均23点を奪う活躍だった長岡は「幅の広いプレイヤーを目指したい」、平野亜実主将(2年)は「目標は優勝だったので」と決して満足していない。けが人が続出したことにも触れ「夏にはベストの状態を臨みたい」と力を込めた。(奥村恵中)